



2025年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月7日

上場会社名 SOLIZE Holdings株式会社 上場取引所 東
コード番号 5871 URL <https://www.solize.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 宮藤 康聡
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 木下 和重 TEL 03-5214-1919
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年12月期第3四半期の連結業績（2025年1月1日～2025年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第3四半期	18,751	14.3	△571	—	△579	—	△354	—
2024年12月期第3四半期	16,411	13.2	219	△48.4	201	△53.5	114	△59.4

(注) 包括利益 2025年12月期第3四半期 △416百万円 (—%) 2024年12月期第3四半期 146百万円 (△61.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第3四半期	△67.06	—
2024年12月期第3四半期	22.81	21.66

(注) 1. 当社は、2024年2月7日に東京証券取引所スタンダード市場に上場したため、2024年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から2024年12月期第3四半期の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

2. 当社は、2025年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載をしております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期第3四半期	14,892	10,908	73.2
2024年12月期	15,448	11,478	74.3

(参考) 自己資本 2025年12月期第3四半期 10,908百万円 2024年12月期 11,478百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	47.00	47.00
2025年12月期	—	0.00	—	—	—
2025年12月期（予想）	—	—	—	55.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,200	15.3	50	△89.0	50	△88.0	5	△98.0	0.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 6社 (社名) SOLIZE PARTNERS株式会社、SOLIZE Ureka Technology株式会社、+81株式会社、SOLIZE Canada Corporation、SOLIZE Corporation (Thailand) Ltd.、株式会社フューレックス、除外 1社 (社名)

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年12月期3Q	6,000,000株	2024年12月期	6,000,000株
② 期末自己株式数	2025年12月期3Q	676,487株	2024年12月期	747,169株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年12月期3Q	5,287,567株	2024年12月期3Q	5,028,943株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料はTDnet及び当社ホームページで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更)	7
(会計方針の変更に関する注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当社グループを取巻く経済環境は、引き続き厳しいものとなりました。当社グループの主要顧客の属する自動車産業では、米国関税政策について一定の方向性が示されたことで足元の景況感が改善した一方、その影響に関する見通しについては不透明な状態が継続し、先行きに関する景況感は悪化しました。これらの要因により、自動車メーカー等の間では激しい開発競争が継続しているものの、当第3四半期に入り、顧客企業においても開発費用の外部流出を抑制する動きが顕在化し、当社グループの需要環境は厳しいものとなりました。このような環境において、当社グループは、グローバルに展開する顧客ニーズに応えるためカナダ及びタイ王国に拠点を設立しエンジニアリングサービスの提供を開始、技術分野においても新規の3DプリンターメーカーRoboze S. p. A. との提携等を推進して領域の拡大を進めて参りました。またソフトウェア領域での拡大を目的として独立系システム会社の株式会社フューレックスの全株式を取得、子会社化を行い、収益を拡大して参りました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの連結売上高は18,751百万円（前年同期比14.3%増）、営業損失は571百万円（前年同期の営業利益は219百万円）、経常損失は579百万円（前年同期の経常利益は201百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は354百万円（前年同期の親会社株主に帰属する四半期純利益は114百万円）となりました。

当社グループのセグメント別の業績は、以下のとおりです。

なお、当第3四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等の注記） 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

（エンジニアリング・マニュファクチャリング事業）

エンジニアリング・マニュファクチャリング事業の市場環境は、当第3四半期に入り自動車産業を中心とした主要顧客の需要の拡大鈍化が想定を超えて明確なものになり、厳しい状況となりました。このような環境の中、当社エンジニアリング・マニュファクチャリング事業は、設計開発に係る受託、及び、エンジニア派遣サービス、3Dプリンターによる試作品製造販売の分野において収益を拡大、インド現地法人 SOLIZE PARTNERS India Private Limitedにおいても3D CADのソフトウェア販売の受注を拡大して参りました。また、将来の収益拡大を目的としたエンジニアを増強した他、営業及び管理の体制強化も進めて参りました。

これらの結果、エンジニアリング・マニュファクチャリング事業の売上高は13,924百万円（前年同期比7.9%増）、セグメント損失は59百万円（前年同期のセグメント利益は537百万円）となりました。

（コンサルティング・エンジニアリング事業）

コンサルティング・エンジニアリング事業の市場環境は、主要既存顧客の属する自動車産業、プラント・建設業等において、堅調な需要が継続して参りましたが、当第3四半期に入り需要の拡大鈍化が見受けられる状況となりました。このような環境の中、当社コンサルティング・エンジニアリング事業は、自動車産業等の主要顧客に対する変革コンサルティングサービスや、モデルベースシミュレーション等による解析サービス、サイバーセキュリティサービスの受注拡大、自然言語処理AIを用いた建設業向けの安全・品質管理を支援するクラウドサービスの展開促進、これに関連するAI製品の開発リリース等を進める一方、営業及び管理の体制強化も進めて参りました。

これらの結果、コンサルティング・エンジニアリング事業の売上高は3,321百万円（前年同期比26.7%増）、セグメント利益は216百万円（前年同期比50.9%減）となりました。

（ビジネスインキュベーション事業）

ビジネスインキュベーション事業の市場環境は、一部自動車産業に関連する顧客において需要の鈍化が見られるものの電機産業や防衛関連産業等からの受注は比較的堅調に推移することとなりました。このような環境の中、既存顧客からの収益の増加に加えて、当第3四半期から株式会社フューレックスを連結したことにより増収となった一方、営業及び管理の体制強化を図った他、のれん償却の開始等により費用が増加いたしました。

これらの結果、ビジネスインキュベーションの売上高は1,506百万円（前年同期比70.8%増）、セグメント損失は778百万円（前年同期のセグメント損失は758百万円）となりました。

（グループ全体）

受取利息の増加等により前第3四半期連結累計期間より営業外収益は9百万円増加し30百万円となりました。また、投資有価証券評価損の増加等により、特別損失は5百万円増加し23百万円となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べて555百万円減少し、14,892百万円となりました。のれん等の無形固定資産が1,427百万円増加、繰延税金資産等の投資その他の資産が521百万円増加、その他の流動資産が305百万円増加した一方、手元資金による株式会社フューレックスの株式取得や税金等調整前四半期純利益の減少、配当金の支払等により現金及び預金が2,927百万円減少したこと等が主な要因となっております。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて13百万円増加し、3,984百万円となりました。賞与引当金が316百万円減少した一方、その他流動負債が250百万円増加、未払費用が106百万円増加したこと等が主な要因となっております。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて569百万円減少し、10,908百万円となりました。資本剰余金が47百万円増加した一方、利益剰余金が601百万円減少したこと等が主な要因となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月14日に開示しました2025年12月期の連結業績予想を修正いたしました。詳細は、本日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,238	4,311
受取手形、売掛金及び契約資産	4,310	4,323
棚卸資産	538	541
その他	511	817
貸倒引当金	△31	△36
流動資産合計	12,567	9,957
固定資産		
有形固定資産	814	871
無形固定資産		
のれん	43	1,196
その他	243	517
無形固定資産合計	286	1,713
投資その他の資産	1,754	2,276
固定資産合計	2,856	4,861
繰延資産	24	72
資産合計	15,448	14,892
負債の部		
流動負債		
買掛金	574	471
未払金	447	523
未払費用	630	737
未払法人税等	150	3
未払消費税等	283	312
契約負債	269	345
賞与引当金	1,243	927
その他	163	414
流動負債合計	3,762	3,735
固定負債		
資産除去債務	161	169
その他	45	79
固定負債合計	207	248
負債合計	3,970	3,984
純資産の部		
株主資本		
資本金	10	10
資本剰余金	1,392	1,440
利益剰余金	10,355	9,754
自己株式	△487	△441
株主資本合計	11,270	10,762
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	0
為替換算調整勘定	206	144
その他の包括利益累計額合計	207	145
純資産合計	11,478	10,908
負債純資産合計	15,448	14,892

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
売上高	16,411	18,751
売上原価	11,875	13,816
売上総利益	4,536	4,935
販売費及び一般管理費	4,316	5,506
営業利益又は営業損失(△)	219	△571
営業外収益		
為替差益	5	6
受取利息	4	12
補助金収入	1	3
その他	9	8
営業外収益合計	20	30
営業外費用		
支払利息	3	2
株式交付費	8	—
上場関連費用	11	—
投資事業組合運用損	13	30
その他	1	6
営業外費用合計	38	39
経常利益又は経常損失(△)	201	△579
特別損失		
減損損失	—	3
投資有価証券評価損	18	19
特別損失合計	18	23
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	183	△603
法人税等	68	△248
四半期純利益又は四半期純損失(△)	114	△354
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	114	△354

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	114	△354
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	0
為替換算調整勘定	31	△61
その他の包括利益合計	32	△61
四半期包括利益	146	△416
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	146	△416

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更)

当第3四半期連結累計期間より、SOLIZE Canada Corporation及びSOLIZE Corporation (Thailand) Ltd.を新設したため、並びに、株式会社SOLIZE分割準備会社1(2025年7月1日付でSOLIZE PARTNERS株式会社へ商号変更)、株式会社SOLIZE分割準備会社2(2025年7月1日付でSOLIZE Ureka Technology株式会社へ商号変更)及び株式会社SOLIZE分割準備会社3(2025年7月1日付で+81株式会社へ商号変更)を分割準備会社として新設したため、新たに連結の範囲に含めております。

また当第3四半期連結累計期間より、株式会社フューレックスを株式取得により完全子会社としたため、新たに連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(グループ通算制度の適用)

当社及び国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、単体納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日 企業会計基準委員会)に従っております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、展開する事業の特性から、「エンジニアリング・マニュファクチャリング事業」、「コンサルティング・エンジニアリング事業」及び「ビジネスインキュベーション事業」の3区分を報告セグメントとしております。

各事業の概要は、下記のとおりです。

「エンジニアリング・マニュファクチャリング事業」については、製品開発受託・エンジニア派遣・コンサルティング事業、3Dプリント試作・最終製品製作事業、3Dプリンター装置導入事業及びエンジニアリングに関するシステムの販売・構築を行っております。

「コンサルティング・エンジニアリング事業」については、ものづくり変革で培ったコア技術により、企業課題・社会課題の解決を行うコンサルティング及びエンジニアリングサービスの提供を行っております。

「ビジネスインキュベーション事業」については、社会・産業課題の解決に向けた新規事業の開発及び運営を中心に行っております。

II 前第3四半期連結累計期間（自 2024年1月1日 至 2024年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	エンジニア リング・マ ニュファク チャリング	コンサルテ ィング・エ ンジニアリ ング	ビジネスイ ンキュベー ション	計		
売上高						
一時点で移転される財 又はサービス	3,450	—	—	3,450	—	3,450
一定の期間にわたり移 転される財又はサービ ス	9,457	2,622	881	12,961	—	12,961
顧客との契約から生じる 収益	12,907	2,622	881	16,411	—	16,411
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	12,907	2,622	881	16,411	—	16,411
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	12,907	2,622	881	16,411	—	16,411
セグメント利益又は損失 (△)	537	440	△758	219	—	219

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅲ 当第3四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	エンジニア リング・マ ニュファク チャリング	コンサルテ ィング・エ ンジニアリ ング	ビジネスイ ンキューベ ーション	計		
売上高						
一時点で移転される財 又はサービス	3,816	—	—	3,816	0	3,816
一定の期間にわたり移 転される財又はサービ ス	10,107	3,321	1,506	14,935	—	14,935
顧客との契約から生じる 収益	13,924	3,321	1,506	18,751	0	18,751
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	13,924	3,321	1,506	18,751	0	18,751
セグメント間の内部売上 高又は振替高	17	12	118	148	△148	—
計	13,941	3,333	1,624	18,900	△148	18,751
セグメント利益又は損失 (△)	△59	216	△778	△621	50	△571

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額50百万円には、セグメント間取引消去686百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用等△636百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、セグメントの区分を従来の「デザイン事業」及び「マニュファクチャリング事業」の2区分から、「エンジニアリング・マニュファクチャリング事業」、「コンサルティング・エンジニアリング事業」及び「ビジネスインキュベーション事業」の3区分に変更いたします。

2025年7月1日付けの持株会社体制への移行により、エンジニアリング・マニュファクチャリング事業をSOLIZE PARTNERS株式会社に、コンサルティング・エンジニアリング事業をSOLIZE Ureka Technology株式会社に、ビジネスインキュベーション事業を+81株式会社にそれぞれ各社へ承継したことに伴い、適切な管理・評価を行う観点から、各事業会社を中心とする報告セグメントに変更を行うことといたしました。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間に「エンジニアリング・マニュファクチャリング事業」セグメントにおいて、RACAR Canada Inc. からの事業譲受により、のれんを179百万円計上しております。

また、当第3四半期連結累計期間に「ビジネスインキュベーション事業」セグメントにおいて、株式会社フューレックスの株式を取得したことにより、のれんを1,026百万円計上しております。なお、当該のれんは取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
減価償却費	145百万円	195百万円
のれんの償却額	19	49